

令和4年 4月28日	農作物病害虫発生予報 5月	山口県病害虫防除所 山口県農林総合技術センター
---------------	--------------------------------	----------------------------

～目 次～

I	予報の概要	1
II	予報	
	【主要病害虫】	2
III	参考(予報の見方、気象予報)	7

I 予報の概要

農作物名	病害虫名	予想発生量	現 況	
			平年比	前年比
カンキツ	かいよう病	平年並	平年並	前年並
ナシ	黒斑病	平年並	平年並	前年並
	黒星病	平年並	平年並	少
果樹全般	カメムシ類	平年並	平年並	多
タマネギ	べと病	やや多	やや多	前年並
	腐敗病	やや少	少	少

問い合わせ先

TEL (083) 927-4006

FAX (083) 927-0214

E-mail a172011@pref.yamaguchi.lg.jp

II 予報

【主要病害虫】

カンキツ

1 かいよう病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	5月上旬 5月下旬

(2) 予報の根拠

ア 3月下旬の越冬病斑調査では、発生ほ場率 15.8%(平年14.0%)、発病葉率 1.1%(平年0.8%)、発病度0.3(平年0.4)、発病葉枝率0.7%(平年1.3%)で平年並みであった(±)。

イ 気象予報では5月の気温は高く、降水量は多い(+)。

(3) 防除対策

<耕種的防除>

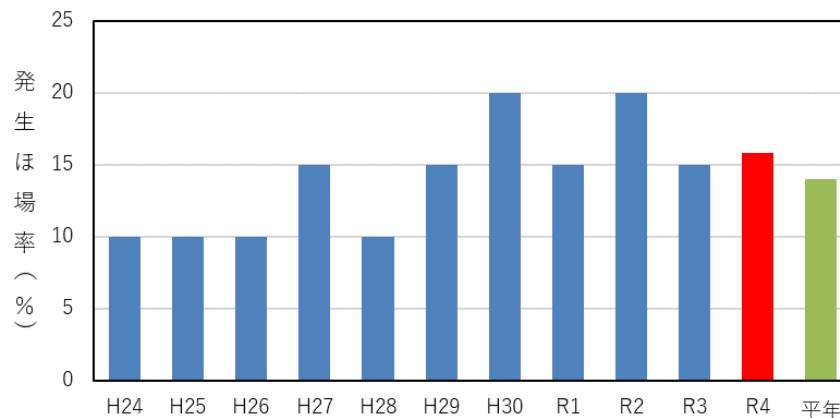
ア 病斑のある葉や枝の除去を徹底する。

イ 強風による枝・葉の傷を防ぐため、防風樹や防風ネットを整備する。

<防除のポイント>

ア かいよう病にかかりやすい品種(アマナツ、イヨカン等)を栽培する園や病斑が認められる園では、春葉への感染防止対策として開花前に薬剤防除を実施する。

イ コサイド等の無機銅水和剤を散布する場合は、薬害軽減のため炭酸カルシウム水和剤(クレフノン)200倍を加用する。また、新梢伸長期にICボルドー66Dを散布すると、新梢に薬害が生じる恐れがあるのでパラフィン系展着剤を加用する。



カンキツかいよう病の発生ほ場率 (3月下旬、越冬病斑調査)

1 黒斑病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	小袋かけ前、小袋かけ後

(2) 予報の根拠

ア 3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率37.5%(平年30.2%)、発病枝率0.3%(平年0.2%)、発病芽率0.1%(平年0.2%)で平年に比べやや多かった(+)。

イ 4月下旬の巡回調査では、発生は認められず、平年並みであった(±)。

ウ 気象予報では、5月の気温は高く、降水量は多い(+)

(3) 防除対策

<耕種的防除>

発病芽は見つけしだい取り除く。また、園の周辺に積まれたせん定枝は早急に処分する。

<防除のポイント>

ア 小袋かけ前は黒斑病の重点防除時期なので、薬剤を丁寧に散布する。

イ 小袋かけは開花1か月後を目安に遅れないように実施する。

ウ 耐性菌の出現を回避するため、同一系統の薬剤を連用しない。

2 黒星病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	少	5月上旬～5月中旬

(2) 予報の根拠

ア 4月下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%(平年1.3%)、発病葉率0%(平年0.0%)で平年並みであった(±)。

イ 気象予報では、5月の気温は高く、降水量は多い(+)

(3) 防除対策

<耕種的防除>

発病した幼果や葉は伝染源となるため、摘果の際に取り除き、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

<防除のポイント>

- ア 小袋かけ前の5月上旬から中旬にかけては黒星病の防除適期であるため、薬剤を丁寧に散布する。
- イ 耐性菌の出現を回避するため、同一系統の薬剤を連用しない。

果樹全般（ナシ、モモ、ウメ等）

1 カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	多	園内への飛来確認時

(2) 予報の根拠

- ア クサギカメムシの隙間トラップによる越冬量調査(10か所)では、1トラップ当たり22.0頭(平年22.0頭)で平年並みであった(±)。
- イ 予察灯(県内5か所、4月1～24日合計)における誘殺数は0頭(平年1.9頭)で平年並みであった(±)。
- ウ 気象予報では、5月の気温は高い(+)

(3) 防除対策

<耕種的防除>

常発園では、ネット(網目4mm以下)で園全体を覆い侵入を防ぐ。

<防除判断>

幼果に被害を受けやすいナシ、モモ、ウメなどでは、ほ場や灯火に集まる虫を観察し、飛来を確認したらすぐに防除を行う。

タマネギ

1 ベと病

令和4年3月15日付け令和3年度農作物病虫害発生予察注意報第4号参照

https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a17201/nougyou/shigen/tyuuihou_keihou.html

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	前年並	7日～10日間隔の定期的な防除

(2) 予報の根拠

ア 4月下旬の巡回調査では、発生ほ場率45.8%(平年22.8%)、発病株率6.5%(平年8.7%)で平年に比べやや多かった(+)。

イ 気象予報では、5月の降水量は多い(+)

(3) 防除対策

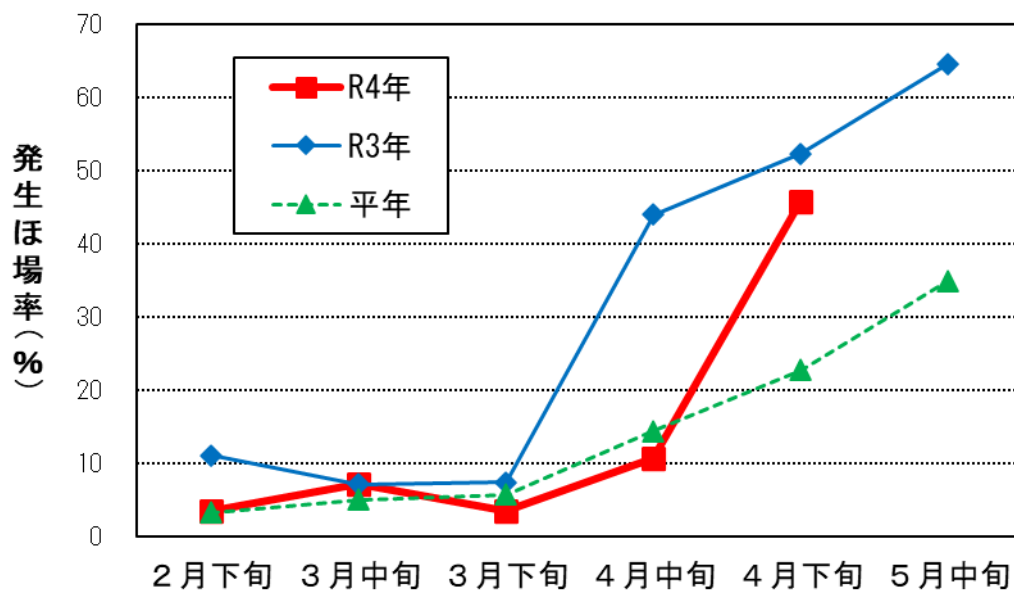
<防除のポイント>

ア 発病が認められるほ場では、治療効果のある薬剤(殺菌剤コード4、11、40及び43を含む薬剤)を散布する。

イ 中生及び晩生品種については、5月中旬頃まで新葉の展開に合わせて7日～10日間隔で定期的に防除を実施する。

ウ 薬剤を散布する場合、これまでの散布履歴を確認し、使用回数及び使用時期を考慮しながら、同一系統の薬剤を連用しないよう注意する。

エ ほ場の排水を良好にする。



タマネギベと病の発生ほ場率の推移

2 腐敗病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	少	少	発病確認時

(2) 予報の根拠

ア 4月下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%(平年11.1%)、発病株率0%(平年0.7%)で、平年に比べ少なかった(－)。

イ 気象予報では、5月の降水量は多い(+)

(3) 防除対策

ア 排水を良好にし、雨水などの停滞を避ける。

イ 発病株は抜き取り、ほ場外に持ち出し、適切に処分する。

ウ 本病の発生が認められるほ場では、薬剤防除を実施する。

エ 貯蔵中の発病を防ぐため、収穫は晴天日に行い、傷をつけないよう注意する。

Ⅲ 参考

1 予報の見方

(1) 病虫害発生量の基準（原則として過去10年間の発生量と比較）

ア 平年比

多	過去10年間で最も多かった年と同程度以上の発生
少	〃 で最も少なかった年と同程度以下の発生
やや多	〃 で2～3番目に多かった年と同程度の発生
やや少	〃 で2～3番目に少なかった年と同程度の発生
平年並	〃 で標準的にみられた発生（上記4項目を除くもの）

注：過去の発生量との比較を表わすもので、被害や防除の必要性とは異なる）

イ 前年比

多	平年比の5段階評価で区分し、前年の評価より多い発生
少	〃 前年の評価より少ない発生
前年並	〃 前年の評価と同等の発生（上記2項目を除くもの）

(2) 病虫害発生時期の基準（原則として過去10年間の発生時期と比較）

早 い	過去10年間の平均値より6日以上早い
遅 い	〃 より6日以上遅い
やや早い	〃 より3～5日早い
やや遅い	〃 より3～5日遅い
平年並	〃 を中心として前後2日以内

(3) 予報根拠における発生要因の評価基準

+	発生を助長する要因
±	発生の助長及び抑制に影響の少ない要因
-	発生を抑制する要因

2 気象予報

(1) 概要

1 か月気象予報（4月21日福岡管区气象台発表）

予 報	低 い (%) 少 ない	平年並 (%)	高 い (%) 多 い
気 温	1 0	3 0	6 0
降 水 量	2 0	3 0	5 0
日照時間	5 0	3 0	2 0

週ごとの気温傾向

予 報	低 い (%)	平年並 (%)	高 い (%)
1 週 目	1 0	1 0	8 0
2 週 目	2 0	3 0	5 0
3～4 週 目	2 0	4 0	4 0